ロツク・アウト続行

手錠でキャップ・ランプを封鎖

果敢に闘う大峰の仲間

古河大峰争議は既報のようにリレー時限ストを強化して闘つていましたが、会社は七月十三日、組合に対して十六日以降ロツク・アウトを通告してきました。

山元は緊張した空気につつまれ、十五日早朝三時すぎ頃から会社の動きが活発になつたので、三時半大衆動員を行い、約千三百人の組合員が、直ちに正門附近に坐り込み、バリケード阻止の態勢を整えました。

涙を呑み戦術転換

これをつき破つてバリケードを築こうとする会社側を説得阻止、材料運搬の阻止などに対して警察は約三〇〇名の機動隊を待機させ弾圧介入をねらつたのです。

午前九時半から会社側と交渉の結果、正門附近にはバリケードを築かない確約をとり、一応坐込みをとき、交渉に入つたが交渉は紛糾ついに決裂したのです。

組合はロツク・アウトが成立した場合には保安要員の差出しを拒否することにしていましたが、涙をのんで一歩後退の戦術をきめ、会社に一時間ストを通告、ロツク・アウト中止を申入れましたが、会社は警察力をバツクとしてあくまで挑発的に出て、これを拒否してきた。

手錠をはめられたキャツプランプ

就業事実上ダメになる

組合では十五日午後六時から小委員会に入り団交準備に入つていたところ、午後九時すぎ警戒隊の間げきを縫つて、警察手錠十二個、および自転車錠十八個をもつてキャツプランプのコードを封鎖しはじめた。組合では直ちに動員したが、とさすでにおそく保安要員用のキャツプランプを殘すのみで全部が封鎖されました。激昂した組合員は再び正門を中心に坐りこみをはじめたのです。

一方組合側は炭労藤岡副委員長、丸岡九本委員長、古炭連白月委員長らも加わり最後の解決え努力したが会社はあくまで頑張つて組織を破壊させようとの意図をすてずついにロツク・アウトを受けて闘うことを決定「古炭連、炭労の態勢を早急に整備してその時期に合せて就労を拒否する」と無念の涙の中に保安要員約八十名を就業させることになつた。

一里の道をデモる

十六日夜より組合員、主婦は一里も離れている鉱業所え約三千名が憎しみをこめてデモを行い、二十四時間交替で坐り込みを開始している。

会社は鉱山監督部に対して「保安命令」を要請し、これによつて業務命令を発して違反者はスト禁法違反で処分するという腹である。

九炭労で確めたところ十八日勧告書を労使双方に手交したことが明らかになつたので、監督部に「保安の責任は鉱業権者だ。組合え勧告したのは不届きである取消せ」と迫つたところ「出した以上取消されぬが、組合にはただお願したにすぎぬ。今後闘争中は労組えは命令とか勧告は行わない」と約束した。

子供を背に鉢巻姿

私たちの過去の闘いを想出し感慨無量でした。私たちの過去の闘いに、温い支援の手が差しのべられたときにどのように力強く、勇気つけられたことかとしみじみ体験しております。

二十三日に現地で九炭労臨時大会が開かれることになつておりますいつでも動員やカンパに応じる態勢が確立されると思います。カンパ運動など炭婦協が主体となつて推進するということが評議員会で決まりました。炭労のさきがけとして会社側のロツク・アウトを完全に粉砕しなければならないと現地の生々しい闘いをみて固く決心致しました。

けれども組合員、主婦はそのようなことを断じてはねのけて一糸乱れない団結の下に、どのように長期化し、困難な状態になろうとも会社に反省させて、ロツク・アウトを完全に粉砕するという強い意志の下に勝利の日まで闘う決意に燃えておられました。

主婦会の皆さんは闘争本部に交替で毎日つめかけ、子供を背負い鉢巻姿もりゝしく立働いておられ、闘争支援に来られる方たちの接待などにつとめられておりますのをみて胸の迫る思いがしました。

支援を送ろう

古炭連の闘争を強化

一方古炭連では現地で十七日中闘を開きロツク・アウト撤回、平均賃金問題を古炭連の闘いとして推進し、闘争を強化することを決定しています。

また九炭労では二十三日、午後一時から現地で臨時大会を開き、支援態勢を強化することになつています。

胸迫る主婦の働き

炭婦協では十九日、闘争の渦中にある大峰で評議員会を開いたが、三池からは西山会長以下十六名が出席、なまなましい現場の空気をじかに感じて、昂奮さめやらぬうちに二十日帰山したが、以下は西山会長が寄せられた闘う大峰をみた現地ルポルタージュである。

ビラで切崩し

七月十九日、果敢に闘つておられる大峰の現地で、炭婦協第二回評議員会が評議員四十二名、傍聴者七十二名が出席して開かれた。

会社は春季賃金闘争でロツク・アウトの力を確信して、ふたたびこのロツク・アウトを通告してきました。三池の四十三日の闘争と同様にビラを断崖に折込んで各家庭に配布し、組合員、家族と執行部との離間策を図んに行つています

家族総出でゲーム

南社宅のコート開き

渋務支部南社宅分会では、日頃から念願となつていたグラウンドがこのほど完成したので、去る十五日の日曜日、家族総出でグラウンド開きを祝つて体育大会を開催した。

南社宅は土地に恵まれず社宅内にはスポーツを楽しむ手頃な広場もなく長年の願いでもあつたので、この日は大変な意気込みであつたなおこのグラウンドを完成するまでには地域、主婦会の人たちの尊い汗が多く流されており、自分たちの手で海水浴場から砂を運びコートの整地をするなど、苦労は一通りではなく、そのためにもこの日の喜びは大変なものだつた。

子供たちの玉入れ競走、主婦対地域分会の人たちのバレー競技では一時は男性群たじたじで危うしとみえたが、かろうじて勝抜き、男性チームの面目をたてる一コマもあつた。

飴食い競走では来賓の支部長以下支部の執行部も参加、飴粉で顔を真白にして走つたり、パン食い競走、恋愛競走、バドミントン、ドッヂボールなど多種多様なプログラムの下に、この日はやけつくような炎天下にもかゝわらず、吹き出る汗ももものかわと、全員がなごやかに、嬉々としてプレーに楽しんだ。

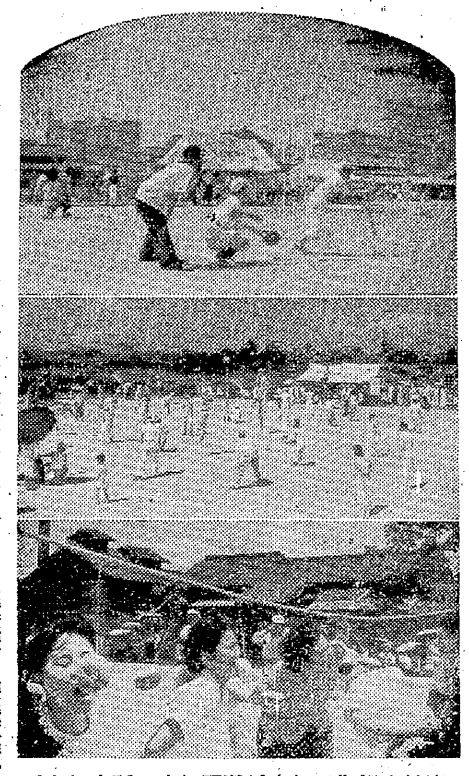
炎天に熱球飛ぶ

本所　少年野球に七夕優勝

同じこの日、本所支部では三作グラウンドで少年野球大会を開催した。照りつける七月の炎天にもかかわらず、少年たちの元気一杯のプレーは試合の進むごとに昂奮して声援の組合員や主婦たちを熱狂させた。

参加九チームであつたが、白川チームが軍故で棄権し八チームが堂々と試合を展開し、ホームもあざやかに大人たちを驚嘆させる一場面もあつた。

最後の優勝戦は七夕チームと宮原チームの間に交されたが、この日の七夕チームは緒戦から破竹の勢いでまず平原、銀水混成チームを二十三対〇で軽く破り、ついで建設を十四対五で破つていて、この余勢をかつて宮原チームを十八対三で堂々の制覇をとげた。



（上）本所の少年野球（中）三作銀水社宅のバレー（下）南社宅のグラウンド開き

優勝七夕　準優勝宮原

なお本所支部としては集団社宅にいる他支部の組合員子弟もこの試合には出場させている。

輝く七連勝（四山）

坑内電気バレー戦で

四山支部部内対抗バレーは十五日午前九時から四山コートで行われた。例年優勝の坑内電気はすでに六年連続優勝の記録をホルダーしており、今年もはたしてこの記録が保持出来るかどうか注視の的になつていたが、さすがその名にたがわず堂々の実力を示し輝く七連勝の記録を殘した。

優勝内電　二位カツベい方　三位本修

汗だくの主婦

緑ガ丘でバレー熱

緑ガ丘楓町主婦会では、二十二日日曜日三鉱主婦会バレー大会選抜のため各班対抗バレー予選を行うそのため、選手に選ばれた人たちは楓町広場で夕方寄り合つて、連日猛練習をつづけている。

なおこの楓町広場では子供たちのバドミントンなどで夕方は大賑わいで、ようやく労働者の主婦たちが集団で運動を楽しむようになつたのは非常に意義あるものと思われている。

バレー大会

三作銀水社宅で開く

三作支部銀水社宅分会では十五日銀水社宅グラウンドでバレー大会を午前九時から開催した。

参加二十チーム、一チームに主婦や学生も交えた混成チームで各班ごとにチームを編成、汗だくで熱戦を行つた。

成績次の通り

優勝十三班　二位十八班　三位　一班　四位十四班

生活の記録

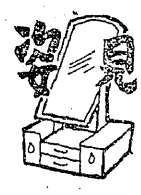
福川文枝

私達の忙しい日常生活の中にも詩はあると思います。例えば縫物に疲れた目を慰めてくれる金魚のあざやかな動きを見ても、猫のひたいのような裏庭に咲きほこる朝顔を見ても、自づからの詩感は湧きでてまいります

この気持が俳句となり短歌となればどんなに楽しいことでしょう。

喜びを活し苦しみに堪える生活と直結した作文が出来れば、これこそ私達の文学であり、くらしの記録であると思います。

又このような母として妻として苦しい生活から生れる悩み、社会の矛盾、政治への希望、子供のしつけ等、生活の中でお互が経験した事柄を綴り発表し合う広場として今年度は学習グループ活動を活発にするとともに、組合機関紙「みいけ」に主婦の欄を設けて頂くようになりました。



みなさん楽しみも、苦しみも共に分ち合いながら勉強をつづけ、主婦として働く婦人としての教養をつみあげ組織の充実をはかり「平和でしあわせ」な社会に近づくため、大いに機関紙を利用し話合いの場所といたしましよう

（主婦会文教部長）

「姿見」について

主婦会の福川文教部長さんから「みいけ」に主婦の立場からお互にいろいろと意見を交流する場所を考えてもらいたいと相談があつた。

他ならぬ主婦会からの相談であるから、これはいつちよう何かよい考えを出して、西日本の「紅皿」毎日の「子らとともに」朝日「ひとときの」の欄に負けないようなものをと思つた。組合の機関紙は組合員はもちろん主婦の方々も読んでもらいたい為に編集をしているので主婦の意見の交流の場所だからといつて男性を無視することも出来ず「もぐらの夜」「どんこの匣」と男性むきを考えたが余りパーツとしない。

「紅唇」「紅一点」これもミハー族の好む映画題名のようだ「女のひろば」「女性の夢」「女性解放」ただでさえ暑くてたまらないのにこれではなお暑さが増す。

スマートでみんなが好むもの仲人相で婦人雑誌を見る柄か」という意味であることはわかつた。

婦人問題の権威者たらんと欲した小生もこの婦人の声欄にはいさきかノイローゼ気味となり正直に頭を冷して鏡を見ることにした。

鏡を見ている中に、そうだこれだ「鏡だ」鏡こそ人の姿を正しく写くして呉れる。心に曇りがある時は鏡を正視することが出来ない。女性と鏡　山内一豊の妻が夫の出陣の際、鏡を倒つて貯えを夫に渡し出陣に恥かしくない準備をさせたことは有名な話で、昔から「姿見」という言葉があるので、辞書を引いたら全身を写す大きな鏡と訳してある。

主婦のみなさん、人生航路の船出に花嫁衣裳を姿見に写した感激を再び「みいけ」の「姿見」に全員が再現して下さい。

編集部長　平島敏治

◎投稿先　大牟田市不知火町二丁目　三池炭鉱主婦会文教部

◎期日　締切日は別にありません

◎字数　六〇〇字前後

◎規則　紙上に名前が出て都合が悪い場合は、原稿だけに本名を書いて下さい。原稿に本名が無い場合は掲載致しません。主婦会、編集部では個人の秘密は絶対守ります

※謝礼掲載分には薄謝を呈します

海外トピック

日本女の自殺は世界一

国際保健機構では世界二五カ国の自殺統計を発表した。これによると日本、オーストリヤ、スイスの自殺率が最高。エール、チリ、スコツトランド、スペインが最低となつている。二十世紀前半では男の方が一般に女より自殺者が多くこの比率はノルウエーでは四対一日本では二対一である。最高記録は一九五四年スイス男十万人につき三十三・九人、女では日本の十七・八人である。

生れた時に歯が十本

米国カルフオルニヤ州で生まれたジエームスミークという赤ん坊、生れたときの目方は一貫二百七十五匁もあつた上、なんと歯が十本見事にはえ揃つていた。満二才になるジエームスちやんのすぐ上の兄ジユニアちやんも歯の数ではこの弟にかなわないそうだ（AP）

ソ連に飛行船ブーム

ソ連ではいま飛行船ブームがはじまろうとしている。もともとソ連は第二次大戦前まではかなり建造したことがあり、その中の一台は無着陸の世界記録もたてている。現在では飛行船の危険もずつとへり、むかしと較べてすべての技術が大きく進歩したので、ソ連でもまた貨物輸送、偵察などに使う飛行船をつくろうとの声が起つたものらしい。（UP）

化粧品が足らぬ中共

中共治下の婦人といえば脂粉の香りとは縁が遠いように思われるが上海周辺に化粧品工場が現われ、これら数十社におよぶ工場で生産される白粉、ほほ紅、口紅、香水の量は今年上半期ですでに昨年の数倍となり、どんなに努力しても需要のほんの一部しか提供出来ないという。政府もこの勢に押されて輸入を許可するということまで考えているという。（AFP）

子供を不幸に導く最もたしかな方法はかれがほしいと言う物を何でも與えることである